
空を見上げて我思う

皇雄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空を見上げて我思う

【Nコード】

N5227F

【作者名】

皇雄

【あらすじ】

この詩は、ゴチクル亭に掲載したものを多少変えて掲載しております。因みに私こと皇雄と、ゴチクル亭の管理人ごっちゃんは同一人物ですのであしからず。

1：雲という名の君に

君を例えるなら、それはきつと雲なんだろう。

いつもふらつと僕の目の前に現われては、かまってくれと言わんばかりの顔をするよね。。。。

君を見るたびその豊かな表情で僕を楽しませてくれるから、僕はいつも君を見てしまっよ。。。。

ふと目を離すと君はいつもどこかへ行ってしまうから、僕は君を探すのが一苦労だよ。。。。

雨上がりの君は少し暗いけど、明るく振る舞ってるよね、僕はそんな君も好きだよ。。。。

君は悲しくなると、周りを気にせず泣くよね？

怒ると周りを巻き込むぐらい怒鳴り散らすから、皆はちよつと迷惑。。。。

君はどこへ行くのかな？さよならした後はいつもどこかへ消えてしまっ。。。。つかめない雲のようだ。

いつか君をつかんでみせるから。。。。その時はずっと僕のそばにいてね。

それが僕の願いだから。

2：空を見上げて

空よ、君の表情は豊かだね・・・。

笑いたいときは眩しいほどの輝きを放つのに、悲しいときはたくさんの涙を流すよね・・・。

空よ、君の心は蒼く澄んで誰よりも大きいね・・・。

僕達人間の心なんてちっぽけで脆く汚いのにな・・・。

空よ、君が大粒の雨を降らしてくれるなら、その涙で僕と泣いて、そして僕の罪を流してくれないか・・・、たとえそれが偽善だとしても・・・。

僕が悩んでいる時、辛い時、君を見上げると自分の悩みがちっぽけで儂く思えるよ。

夕日が照らす空は何とも神秘的だよ。

朱から紺、そして漆黒の闇へ変わっていく様子は、なぜか切ない気持ちにさせるね。

夜の空もとても素敵だね。

夜空に浮かぶ月、それを飾っている満天の星、ずっと見ていても飽きないよ。

満月の夜は機嫌がいいのかな？

いくら雲に隠れてても、その嬉しそうな輝きはどこにいても分かるよね。

その光で僕の心も照らしておくれ、きつとどんな気持ちも晴らしてくれるはず。

空に浮かぶ雲も、様々な表情を見せてくれる。

絶え間なく変わる形は、見ていて飽きない。

僕は、夏に見る入道雲が一番好きだよ。

何とも清々しい気持ちにさせてくれるよね。

君を見上げるといつも賑やかで僕を楽しませてくれる。

君を見上げるといつも色鮮やかで僕を楽しませてくれる。

君を見上げるといつも何か君を飾っている。

そんな君を見上げれば、ほら・・・心は満たされるのだ。

3：絆

故郷を出て、自分の道へ突き進む友に今贈ろうこの詩を。

少し大人になり始め、桜が綺麗なこの季節に、

いつの間にかそこにいて、いつの間にか笑いあって、いつの間にかいつも側にいた。

部活を真面目にやらない俺たち二人を、いつもお前は追い掛け回していた、あれはもう時効だよな？

お前とは、いつもゲームをして遅くまで遊んだり、車に突き飛ばされて死にかけてたコトもあった。

ホントに楽しかった。

三人が皆、違う個性で、まとまりがなく、仲が良いのか、悪いのか分からない奴らだよな？

絆が間だ、俺達を繋いでくれてるなら、少しわがままを言ってもいいよな？

ホントに寂しくなったら、何も言わなくていい、ただ話を聞いてくれるか？

辛くて涙が出る前に・・・。

桜が咲き、少し違う道を歩き始めたこの季節に、

未だまだお前等はそこで、未だまだ俺達は笑い合い、未だまだ俺等の縁は切れなかった。

お前とは、いろんな所へ行つて、日が暮れるまで自然と戯れた。

お前は、いつも無知な俺に新しいコトを教えてくれて、いろんなモノを見せてくれた。

ホントに楽しかった。

三人が皆、言いたいことを言つて、話を聞かず、ただ笑いだけで時間が過ぎていったよな？

絆が間だ、俺達を繋いでくれてるなら、どんな時も支え合える仲間
でいさせてくれるか？

ギリギリの状況に陥った時だけでいい、倒れない支えになってくれるか？

どんな事にも立ち向かいたいから。

そしてお前らは、ココをでて、遠くに行ってしまった。

俺は一人、取り残された気分だった。

どこにも逃げ場がなくなった時、ホントに挫けた時、ホントに笑いながら話していたのはやっぱりお前らだったよ。

俺が恋に破れた時、お前らはいつもと変わらない態度で接してくれた。

イラついた反面すごく嬉しかった。

お前らは、寂しくなったら、気を紛らわしてくれる仲間が側にいるか？

俺は、未だ一人だよ。。。

絆よ今は、遠くにいるけど、変わらぬ心でいさせてくれるか？

いつか壊れてしまうのが怖いんだ。。。

絆よ間だ、俺達を繋いでいてくれるよな？

俺の希望は、恋じゃなく、お前らだけになってしまったから

側にいなくてもいい、ただ俺を忘れないでいてくれれば……。

またいつか帰ってきたら、また三人で、他愛無い話で笑い合おう

いつまでも待ってるから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5227f/>

空を見上げて我思う

2010年10月28日04時07分発行